

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会議の名称	平成30年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会 「第1回在宅医療・介護連携推進部会」
開催日時	平成30年7月27日（金） 午後2時から午後3時10分
開催場所	清須市役所北館2階 第1・2会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 報告 （1）「きよすレインボーネット」の利用状況及び運用について 4 議事 （1）在宅医療・介護連携推進事業について （2）在宅医療サポートセンター設置事業について 5 その他 6 閉会
会議資料	会議次第 清須市地域包括ケアシステム推進委員会委員名簿 清須市地域包括ケアシステム推進委員会設置要綱 資料1 「きよすレインボーネット」の利用状況及び運用について 別添資料1 「レインボーネット」利用の手引き 資料2 在宅医療・介護連携推進事業について 資料3 在宅医療サポートセンター設置事業
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	加藤（裕）委員、加藤（高）委員、山口委員、神谷委員、 加藤（武）委員、室田委員、鹿山委員
欠席委員	なし
出席者 （オブザーバー）	西名古屋医師会在宅医療サポートセンター コンダクター 増井 恵美
事務局	（清須市役所高齢福祉課） 森川健康福祉部次長兼高齢福祉課長、木全主幹、酒井課長補佐、 幸村係長 （清須市社会福祉協議会地域包括支援センター） 柴垣管理者

1 開 会

●事務局

ただいまから平成30年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会「第1回在宅医療・介護連携推進部会」を始めさせていただきます。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます、健康福祉部高齢福祉課長の森川です。よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

福田健康福祉部長の挨拶は無し

[台風12号の接近に伴う災害対策本部会議出席のため]

3 報 告

●事務局

それでは、次第に沿って議事に入りますが、議事進行につきましては、部会長が議長になることになっておりますので、加藤（裕）部会長に議長をお願いいたします。

◎加藤（裕）部会長

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

議題にもありますICTの問題等につきましては、是非皆様のお力をいただきまして、さらに住み良い環境作りにご協力いただければと思っておりますのでお願いいたします。

それでは、3. 報告（1）「きよすレインボーネット」の利用状況及び運用について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局

[資料に沿って説明]

（資料1）「きよすレインボーネット」の利用状況及び運用について
（別添資料1）「レインボーネット」利用の手引き

◎加藤（裕）部会長

ただ今の説明に対して、ご質問やご意見はありませんか。

○加藤（高）委員

変更事項について、地区三師会に加入していれば、尾張中部地域以外の医師も同じようにレインボーネットを利用出来るということですが、清須市の地域特性が稲沢市やあま市に近いということで、名古屋

医療圏と尾張中部医療圏が一緒になることもあり今後システムを一緒にしていくといった話はございますか。

●事務局

システムを一緒にしていくという話は出ておりませんが、例えば清須市の患者で稲沢市の病院が関与する場合、その方が医師会に入っていれば清須市のレインボーネットの登録は可能です。

○加藤（高）委員

レインボーネットに他の地域の医者が登録するのは構わないとのことですが、我々サイドから申し上げると、他の地域の患者を登録出来るかどうか、他市町のシステムを使うことになるのでその辺りを連携していただけたらと思うのですが。

●事務局

そこは各自治体の運用によるのではないかとと思いますが、他市町がOKであれば登録出来ると考えられます。

○加藤（高）委員

そういった連携について自治体同士で話し合いはありませんか。

◎加藤（裕）部会長

尾張中部地域以外の医師の利用も可能と記載があり、旧西春日井地区以外の稲沢市、名古屋市など三師会に入っていれば少なくともレインボーネットに登録することは出来ます。レインボーネットは門戸を広げており、稲沢市やあま市、また名古屋市についてはシステム的には同じだとは思いますが、セキュリティの問題で登録出来るか否かというのは各市町が決めておられると理解しております。県内同一のシステムで運用していくかは、予算やシステムがまるで違うというのもの中にはあり、ちょっと難しいこともあるかと思いますが、県全体の動きとして行政の方で何か掴んでおりますか。

●事務局

特段はございません。

◎加藤（裕）部会長

利用状況は昨年と比較して微増というか横ばいになっており、中々大きく広がっていないというのは先ほど加藤（高）委員がおっしゃられていたような障壁があるのかもしれない。

居宅介護支援事業所代表の加藤（武）委員、レインボーネットが使

いづらかったことなどありましたか。

○加藤（武）委員

私も自分のスマートフォンで見られるようにしていたのですが、先日携帯を換えましたら見えなくなってしまい、もう一回やり直さなければならないと思っておりますが、今度 I I J に事業者が変更になり、このタイミングでレインボーネットの雰囲気盛り上げていただいた方がいいのかなと思います。ここに来て若干トーンダウンしてきてしまった部分もあると思しますので もう一度仕切り直していただきたいと思っております。

当初スモールスタートで始められて、居宅の連絡会では I C T 化に向けてやっていこうという話はしておりますが、実際登録者数が伸びていかないというのは何か登録したら事業者に利益があるような、そういうきっかけなどがあるとより広がりやすいのかなという気がします。今のまま情報や連絡を取りやすくするというだけでは、中々広がっていかないという気がしてなりません。

◎加藤（裕）部会長

何かレインボーポイントみたいなものを作るといいかもしれませんね。

島野先生が事業者の変更に関わっておられて、今回スマートフォン画面が使いやすいと評判で、契約は済んでいないけれども今後それぞれの事業所を集めて説明を行い、進めて行く予定であると話を聞いております。

○神谷委員

「レインボーネット」利用の手引き（別添資料 1）に医療圏という言葉が出てきますが、この 4 月から名古屋と合同になっており、名古屋・尾張中部圏域の 3 市町のレインボーネットは尾張中部圏域と整理しております。

◎加藤（裕）部会長

尾張中部医療圏は吸収合併をされ名古屋に取り込まれたという形になっております。

訪問看護事業所の方で中々レインボーネットの利用者が増えていかないことに対してご意見はありませんか。

○室田委員

患者の登録者数だけで見ると今一つの感は否めないですが、登録しているケアマネジャー、保健所の神谷委員や個々の連絡など、プライ

ベートな連絡先を知らなくてもレインボーネットでメッセージを交換し連絡を取り合うことが出来ますし、会議よりも比較的カジュアルに意見交換が可能です。加えて、ファックスを送る手間など書類の数を減らす取り組みがされている印象があります。北名古屋市もファックスを同様に減らす取り組みをされており、「お知らせ」欄を使って受身ではなく能動的にそちらを出来るだけ見てもらうという利用の仕方というか、患者の登録者数だけではなく利用方法がバラエティーに富んできているのかなと思っております。

◎加藤（裕） 部会長

続きまして4.議題（1）在宅医療・介護連携推進事業について事務局より説明をお願いいたします。

4 議題

●事務局

〔資料に沿って説明〕

（資料2）在宅医療・介護連携推進事業について

◎加藤（裕） 部会長

ただ今の説明に対して、ご質問やご意見はありませんか。

○室田委員

生活支援コーディネーターについてご説明いただけますか。

●事務局

今年度から開始した事業になりまして、市町によって設置方法はさまざまではありますが、清須市としては社会福祉協議会に委託をして1人配置しております。地域資源発掘ということで色々な地区を回り、その地区の不足している高齢者向けの生活支援サービスが何であるかなど、担い手の育成を行っております。

◎加藤（裕） 部会長

今はまだ資料を集めているような段階ですか。

●事務局

地域資源は市や包括支援センターが今までも把握はしておりますが、やはり全てを把握しきれているわけではありません。そういったところで、コーディネーターは地域に出向いて行きますので色々な情報も得られると考えております。

○室田委員

市として、どのようなインフォーマルサービスを資源として位置づけておられますか。

○加藤（武）委員

地域の体操教室やサロンなど元気な高齢者の通いの場に成り得るところや、同じ趣味を持つ方が集まる囲碁・将棋教室などのインフォーマルな活動が市でも未だ見えていないところが沢山あると思います。また、総合事業との絡みもあり、要支援者・事業対象者である要介護にはならないけれども家から出なくなった高齢者のご自宅の近くで、通いの場になるようなところを顕在化させることによって、その方達を外に出していくような場所を探したり、掘り起こしたり、作ったりというような活動をされているのが生活支援コーディネーターだと思います。

●事務局

レインボーネットの医療・介護資源マップの登録状況を見ていただきますと、「集いの場」81件の中に生活支援コーディネーターが地域を回って発掘した数が上がってきております。新たにそうして発掘したところを加藤（武）委員が説明されたように、繋いでいくという役割も担っていきます。地域にどういったものがあるのかまだまだ市が把握していないところも沢山ありますので、地域で困っていることや何か相談したいが出来るところがないなどの課題を把握し、出来れば先程おっしゃられたように、どこか行きたいなという人と集いの場を繋ぐことなど、何かして欲しいなということがあれば作り出していくような働きも今後期待しております。

●山口委員

生活支援コーディネーターの存在を知らない方も多いと思いますが。

●事務局

今年の4月から始めておりまして、周知をしながら地域に顔売りに行くというか、色々なことを教えてもらいながら把握をしていくという段階です。

○加藤（高）委員

対象者は高齢者だけですか。

●事務局

委託は高齢者ということになりますが、高齢の障害者もいらっしゃると思います。障害者の方も高齢化してきておられますので色々伺いしていければと考えております。

◎加藤（裕） 部会長

訪問介護事業所の立場としてこういった事業の展開について、鹿山委員いかがですか。

○鹿山委員

生活支援コーディネーターの部分以外で昨年度との変更点はありますか。

●事務局

昨年度と大きな変更点はございませんが、サポートセンターの実施主体が市町村となりました。

◎加藤（裕） 部会長

項目的にはほぼ同じで、内容的に変わってきたものとしてサポートセンターの委託先が代わり、生活支援コーディネーターという役職の方を一人置かれたと考えてよろしいですね。

●事務局

後ほど資料3で説明させていただく予定ですが、在宅医療サポートセンターの業務内容でこの8項目を委託していくのですが、イの「市町から提出されるデータ分析し課題の抽出」と記載させていただいた部分が昨年とは異なります。

◎加藤（裕） 部会長

資料3の在宅医療サポートセンター設置事業についても話がありましたので、このまま資料3の説明をお願いいたします。

●事務局

〔資料に沿って説明〕

（資料3）在宅医療サポートセンター設置事業について

◎加藤（裕） 部会長

在宅医療サポートセンターから本日は増井コンダクターにお越しいただいておりますので、ご説明をしていただいてもよろしいでしょうか。

□増井コンダクター

2市1町からの委託ということでアからクまでの項目に取り組んでおり、レセプトの解析を開始しております。

清須市の地域ケア会議等の参加や8月21日にはるひ呼吸器病院の齊藤先生を講師として呼び出して、ケアまる会と共催でケアマネカフェを行います。また、近隣のサポートセンターを岩倉や名古屋など7・8箇所、例えば稲沢の在宅医療介護サポートセンターと稲沢市民センターの方に訪問し、あま市の方には電話連絡をしております。

サポートセンターでお便りを作っており、この4月からはケアマネジャーから相談をいただいた時に、試作ではありますが相談情報共有紙を使い相談を受けております。レスパイト入院が困難であるとか施設入所が困難である場合に、病院のケースワーカーに話を聞いてケアマネジャーのサポートを行っております。

◎加藤（裕） 部会長

アの「地域の医療・介護サービス資源の把握」というのはもうほぼ済んでいるという認識でよろしいですか。

□増井コンダクター

日々さまざまな地域の活動にも参加させていただいており、済んでいるということで問題ないかと思われます。

◎加藤（裕） 部会長

色んな媒体を使って情報の共有ということですが、電子@連絡帳があらゆるケースに当てはまるようなシステムに代わると良いと思っております、I I Jに期待しているところであります。

色々と統括をしておられる保健所の神谷委員いかがですか。

○神谷委員

今年から市町村が実施主体と書いていただいておりますが、そのことを踏まえて在宅医療サポートセンターを市町村から委託してもらい動き出したなというところです。

二つ目に、ICTについて3市町で同じ規約になったことが他の地域にない大きな部分かなと思っており、委託先もI I Jに代わるので進んでいくのかなと期待しております。

三つ目に、先ほど事務局からデータ分析の話がありましたが、昨年豊明市に3市町の担当者が視察に行き、実際に今年度4月からデータ分析し何度も集まって進めており、水野先生に10月に来てもらうのですが、その前に出来るところから既に始めております。加藤先生からもお話がありましたが、この地域は外に医療資源を頼っているところ

ろが大きいというのを皆で確認しあっており、具体的に市町がどこの医療機関にかかっているのかをしっかりと分析し、連携を増井コンダクターに伝えデータ化していくというのも動きだしをしているところだと思います。

◎加藤（裕） 部会長

この前の豪雨災害の時もそうですが、市町の避難勧告が出る前に、湧き水が濁ってきたから自発的に周りの人を誘って逃げて行く、つまり上から指令が出る前に自分たちで気づいたところを下から積み上げていくことが結局身を守ることになるのだと思います。もしかしたら在宅における医療介護の問題も現場から発信していかなければならないのかなという気がしております。

それでは、5.その他について事務局から何かございますか。

5 その他

●事務局

次回の会議についてですが、2回目の委員会を2月か3月に開催いたしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎加藤（裕） 部会長

最後にご意見等はございませんか。

○加藤（武） 委員

生活支援コーディネーターの役割について補足させていただきますと、清須市の総合事業における通所サービスは、ずっと通い続けることは出来ない独自のサービスとなっております。生活支援コーディネーターがここで出てくるのは、卒業した後にデイサービスのような定期的な通いの場が地域に無いとシステムが立ち行かなくなるということがあるため、生活支援コーディネーターが活動をしているという土壌があり、そういう意味では豊明市のような先進的な取り組みをされています。介護保険の認定を続けていけば良いのではなく、介護サービスを使わずに地域で長く在宅生活をしていける期間を延ばしていこう、という地域づくりをしていかねければならないということをお客様にも再度考えていただけると良いと思います。

◎加藤（裕） 委員

生活支援コーディネーターの業務内容が清須市で増えていくことが介護予防に繋がる、延いては介護保険料の低減にも繋がるということだろうと思いますので、分析結果にもよるとは思いますが、要介護

	<p>が進まない初期段階で介入していくことが行政として出来ていくと良いと思います。</p> <p>それでは、議題も全て終了しましたので、これをもちまして清須市地域包括ケアシステム推進委員会「第1回在宅医療・介護連携推進部会」を閉会いたします。本日は、円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。</p> <p>6 閉会</p> <p style="text-align: right;">午後3時10分</p>
会議の結果	会議の経過に示したとおり